

Gender and cultural differences in linguistic constructions of identity in Japanese and Polish

バルトシュ, ヴォランスキ

<https://doi.org/10.15017/1866240>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (比較社会文化), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	バルトシュ ヴォランスキ (Bartosz Wołński)			
論文名	Gender and cultural differences in linguistic constructions of identity in Japanese and Polish (日本語とポーランド語におけるアイデンティティの言語的構築に見られるジェンダー差および文化差)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	松村 瑞子
	副査	九州大学	教授	山村 ひろみ
	副査	九州大学	教授	井上 奈良彦
	副査	九州大学	准教授	西野 常夫
	副査	日本赤十字九州国際看護大学	教授	因 京子

論文審査の結果の要旨

本論文は、ジェンダー差および文化差を中心として、日本語とポーランド語においてアイデンティティがどのように構築されていくのかを、社会言語学的に対照させたものである。両言語の類似点および相違点を、自ら収集した膨大なデータの分析に基づき実証的に示したものであり、高く評価できる。論文の概要は以下の通りである。

序章では、アイデンティティとジェンダーに関する先行研究を概観し、本研究の立場および研究課題を明らかにした。第2章では、本論文の基礎となる「アイデンティティ」、「ジェンダー」及び「文化」という三つの概念に関する定義を明記し、それぞれについての先行研究を概観した。第3章以降が本論である。第3章では、アイデンティティのレッテルとしての呼称表現及び指示表現について分析を行った。年齢や性の他に自己提示法が明らかに呼称表現に影響を与えていた。自然性は重要な要因ではあるが、意図的に表示される男性性や女性性が呼称に影響していた。日本語とポーランド語の対照については、ポーランド語では対話者間での対称性の、日本語では非対称性の傾向が強いことが分かった。第4章では、アイデンティティへの攻撃のみならず、連帯意識の形成や隠れた威信表示手段としてのタブー語や罵詈雑言について調査分析を行った。その結果、両国ともタブー語を他者のアイデンティティ攻撃に使用することは少なく、多くは感情表示や強調に用いられていた。ジェンダーに関しては、両言語ともタブー語と男性性の関連性が観察できたが、日本語の場合、直接的にジェンダーを表現する要素がポーランド語より多様であり、それらとタブー語との関連性にも差異が見られた。自然会話でもオンラインコミュニケーションでも、これらの言葉を直接的攻撃に使うのは男性が多いが、取り分けポーランド語では男性の使用が多かった。第5章では、他者のアイデンティティを模倣または創作するための手段としての引用表現を分析した。自然会話における引用表現を分析することで、ジェンダーマーカーの使用がどのようにして被引用者の人物像を作り上げていくのかについて分析を行った。日本語の引用文においては、終助詞の使用が被引用者の特性を構築していった。ポーランド語の場合は、文法的な性及び語彙によって話者のジェンダーが表現されていた。また、ジェンダーマーカーを含んだ発話の引用は不快感を表すことが多く、その傾向は日本語においてより強いことが分かった。第6章の考察では、前章までの分析結果を、日本人とポーランド人の言語に対する民族的および規範的姿勢から考察した。両国とも、男

性的なアイデンティティを好ましいものと認めることが多く、それを自分のアイデンティティと結びつけるような言語行為が見られたが、取分けポーランドではその傾向が強かった。ポーランド人女性は、女性同士のグループを男性の軍事的や違法的な暴力集団に例える等「男性の強さ」を賞賛し、またポーランド人男性は「男性の強さ」の欠如を好ましくないアイデンティティと認識する傾向にあった。さらに、この考察結果は、第4章で述べた「ポーランドでは攻撃性を強さや自信の表れと見做すが、日本では節度の無さと見做す」という相違にも通じることを論じた。第7章は結論である。

本論文で明らかにされたアイデンティティ構築における日本とポーランドの社会文化的相違についての理解は、両国間の相互理解を進展させる上で極めて有用である。アイデンティティを言語学的に研究した先行研究は多いが、その研究成果を教育に還元することを目指した研究は少ない。本研究は、異文化理解教育の実用化に向けて行われた実証的研究であり高く評価できる。拠って、論文調査委員会は、本論文を博士（比較社会文化）の学位に値すると判断した。